

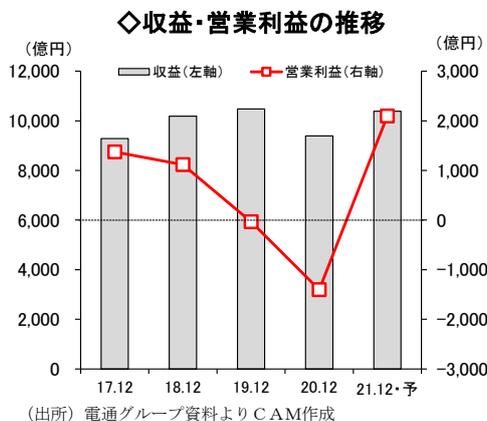
# 企業ニュース 電通グループ

(東証1部: 4324) <https://www.group.dentsu.com/jp/>

作成者: 村上大志

## 国内トップの広告代理店

1901年創業。米国、中国に次ぐ世界第3位の広告市場である日本で長年にわたりナンバーワンのシェアを持つ。世界の広告主トップ100社のうち95社を顧客としており、2020年の収益においては広告代理店世界第6位。構造改革と経費削減を目的にリクルート(6098)やその他政策保有株、不動産物件の売却などを進めている。中期経営計画では、21.12-24.12期の売上総利益のオーガニック成長率(合併・買収や為替変動の影響を除く)で年平均3-4%などを目指す。20.12期の地域別売上総利益構成比は日本42%、米州26%、EMEA(欧州・中東・アフリカ)22%、APAC(日本を除くアジア太平洋)10%。



## 構造改革の進展により収益性が改善

21.12期・第2四半期累計(1-6月)の連結業績は収益が4,927億円、前年同期比7%増、営業利益が844億円、同194%増。広告市場の回復に加え、構造改革及びコストコントロールの効果により大幅な増益を達成した。特に国内はDX(デジタルトランスフォーメーション)需要などによって好調だったデジタルソリューション領域が業績をけん引したほか、顧客企業によるマス広告出稿の回復が寄与した。

21.12期の会社計画は収益が1兆390億円、同11%増、営業利益は2,096億円と、前期の1,406億円の赤字から黒字転換を見込む。本社ビルの譲渡及び賃貸契約の取引による影響として営業損益で約870億円のプラスを、構造改革費用として280億円(国内240億円、海外40億円)のマイナスを織り込んでいる。広告市場は新型コロナウイルスの感染拡大の影響による落ち込みから回復傾向が続いており、上期の売上総利益のオーガニック成長率は5%を上回った。海外ではブランドの統合や不動産コストの削減など構造改革が順調に進展している。国内外ともに構造改革とコストコントロールにより、引き続き収益性の改善が期待できよう。

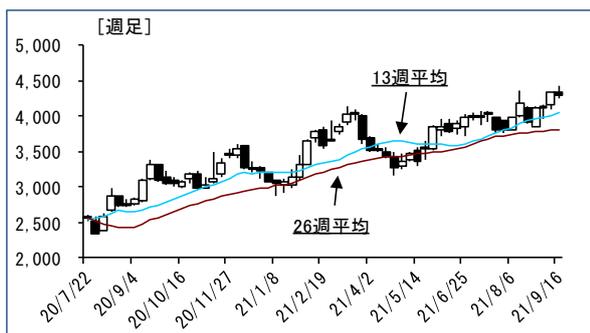
## [株価動向・投資判断]

広告需要の回復と構造改革の進展による収益性改善で、業績拡大が期待できよう。

<4324 電通グループ 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
19.12	1,047,881 ( 3)	▲ 3,358 ( -)	▲ 42,769 ( -)	▲ 80,893 ( -)	▲ 287.9	95.00
20.12	939,243 (▲ 10)	▲ 140,625 ( -)	▲ 141,133 ( -)	▲ 159,596 ( -)	▲ 571.2	71.25
21.12 予	1,039,000 ( 11)	209,600 ( -)	- ( -)	107,500 ( -)	384.5	101.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2021/9/16)	4,285 円
年初来高値 (高値日)	4,420 円 (21/9/14)
同 安値 (安値日)	2,876 円 (21/1/5)
予想 P E R (21.12 予)	11.1 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,978.6 円
P B R	1.44 倍
予想配当利回り	2.36 %
(1株当たり配当金年101.00円)	
R O E (20.12)	▲ 18.4 %
発行済み株式数	28,841 万株